

令和8年度 第1回築上町総合計画等推進本部会議 議事録

1. 日 時 令和8年4月15日(水) 9:05~10:05

2. 場 所 築上町役場 会議室3-1、3-2

3. 出席者

① 構成員

町長	古市 照雄 (本部長)
副町長	八野 紘海 (副本部長)
教育長	久保 ひろみ
総務課長	鍛冶 孝広
企画財政課長	椎野 満博
まちづくり振興課長	首藤 裕幸
人権課長	田村 貴志
住民生活課長	西田 哲幸
税務課長	横内 秀樹
保険福祉課長	吉川 千保
産業課長	神崎 秀一
建設課長	北代 幸介
都市政策課長	尾座本 三雄
上下水道課長	福田 記久
会計課長	石井 紫
子育て・健康支援課長	山田 里美
学校教育課長	則松 裕司
教育施設整備室長	樽本 知也
生涯学習課長	桑野 智
議会事務局長	種子 祐彦
監査委員事務局長	鞆野 利枝

② 事務局 (企画財政課)

舛川 千菜美
辻上 亮

4. 会議経過

1. 開会
2. 本部長挨拶

3. 議題

- ① 次期総合計画策定方針、策定体制及び策定スケジュール等について
- ② 第3期築上町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき令和6年度に実施した事業の効果検証結果について（報告）

4. 閉会

5. 報告事項

- ① 今後のスケジュールの確認について
- ② 第2次築上町後期基本計画検証振り返りについて
- ③ 基礎調査・アンケート調査報告について
- 事務局から資料に基づき説明を行った。

【質疑及び意見】

なし

6. 協議事項

- ① 将来像案等の検討について
- 事務局から資料に基づき説明を行った。

【質疑及び意見】

・（産業課長）資料4の最後（20ページ）にある将来像の3つの案については、この中から最終的に一つを選んで決定するのか。

→（企画財政課）現時点ではあくまで叩き台としての複数案である。今後開催される住民ワークショップでの意見も重視し、それらを踏まえて最終的には一つに絞り込んでいく。

・（教育施設整備室長）基本目標ごとに「目指す姿」は示されているが、10年間の計画として、どの地区を重点的に整備していくのかといった視点も併せて示さないと、計画の具体性や一貫性が伝わらないのではないかと。

→（企画財政課）立地適正化計画や都市計画マスタープラン等の考え方に基づき、居住区域や商業区域のゾーニング、公共施設の統廃合、住宅施策の集約場所などを全庁的に検討していく必要がある。

・（教育施設整備室長）コンパクトなまちづくりを目指すと言っても、実際に拠点をどこにするのが明確でないと、特定の地域だけを整備することへの住民の理解を得るのが難しいのではないかと。

→（都市政策課長）基本的には町内に拠点を設定し、それらを交通ネットワークで結び、拠

点へ人口を誘導して投資を集中させるという考え方になる。今後、都市計画マスタープランの見直し等と合わせて、どこを拠点として残し、投資を行っていくかを検討する必要がある。

→ (町長) これまで本町は、総合計画や総合戦略のもと人口減少対策に取り組んできたが、現状は全国的な傾向以上に急速な人口減少が進んでいる。今後は「スマートシュリンク (賢く縮む)」の視点も踏まえ、まちづくりのあり方や資源配分を見直す必要がある。

本会議は将来を左右する重要な場であるため、立場にとらわれず、それぞれの考えや意見を積極的に発言してほしい。

・ (保険福祉課長) 資料5の基本目標の項目 (18 ページ等) に「新技術の活用」という言葉が出てくるが、計画なので可能であればもう少し具体的に書いたほうがよいのではないか。

→ (企画財政課) 企業誘致や創業支援を一体的に進める中での表現であるが、具体化できるか、あるいは「新技術」という言葉を整理するか検討したい。

・ (保険福祉課長) 序論の「町の魅力」の項目 (資料5の8 ページ) に、農林水産大臣賞を受賞した「液肥」の取組など、本町の強みをもう少し強調して盛り込めないか。

→ (企画財政課) 現在作成中の段階なので、ご意見として承り、反映を検討していく。

・ (保険福祉課長) 子育て支援に関連して、単に支援するだけでなく「子どもの生命を護る」といった、より踏み込んだ強い言葉を入れられないか。

→ (企画財政課) 現状認識を記載している箇所ではあるが、表現として工夫できるか検討する。

・ (教育施設整備室長) 「コンパクトで住みやすいまち」を目指すにあたり、企画財政課の中では具体的にどの辺りを拠点として想定しているのか。土地利用の観点から、ある程度拠点を明確にしておかないと、すべての地域に一律に投資することは財政的に不可能であり、住民への説明も難しくなるのではないか。

→ (企画財政課) 都市計画マスタープランにおけるゾーニングが基本となる。職員ワークショップでも「コンパクトシティ」というワードは多く出されており、公共施設の統廃合や拠点の集約を想定して文言を盛り込んでいる。

・ (町長) 今後のまちづくりには「スマートシュリンク (賢く縮む)」という視点が必要である。これまでは「面」で予算を配分してきたが、今後は「点」を絞り、どこに力点を置いて財政投入していくかを明確にすべきではないか。

→ (上下水道課長) インフラ整備、特に下水道については、維持管理コストが非常に大きい。人口が減少する中で管路が長くなれば、将来的に大きな負担となる。既存施設を最大限活用

し、効率的な居住エリアを維持していく方向で検討したい。

・(上下水道課長) 学校の統合が進む中で、閉校となった小学校跡地の利活用が課題となる。上下水道が整備されている場所は住宅地としての活用も考えられるが、そうでない地域については、無理に売却や開発を目指すのではなく、平地にして「地域の遊び場」として残すなど、コストをかけずに維持できる方法を検討してはどうか。

(町長) 町の基幹産業に関連する液肥事業について、将来的な懸念がある。人口減少により原料となるし尿等の発生量が減れば、液肥の製造量も維持できなくなるのではないか。農業を持続させるため、将来的に他市町からの原料受け入れを検討し、手数料収入を得つつ、原料を確保して液肥を安定供給する仕組みなど、総合計画の期間内において検討すべき課題である。

・(副町長) 資料5に示されている各基本目標の方向性や「目指す姿」などの記述について、現在は文章としてまとまっているが、町の名前を入れ替えれば他のどの自治体でも通用するような、汎用的な内容に見える。もっと築上町がこれまで注力してきた独自の取組（一次産業の施策など）や本町ならではの特徴を具体的に盛り込み、読んだ人が「築上町らしい」と感じられるようなオリジナリティのある表現にブラッシュアップすべきではないか。これまでの実績や今後の展望を、本町固有の言葉で書き込むことが望ましい。

→ (企画財政課) ご指摘の通り、本町の特徴がより鮮明に伝わるよう、改めて文言の精査と修正を行いたい。

以上